

平成22年度 第1回特殊ファスナー部会

漸く春らしくなった去る4月15日木曜日午後6時から、新年度第1回の特殊ファスナー部会（部会長山口昌利）を、神田淡路町の創業が明治10年という割烹料理の「萬代」で開催した。



新聞やテレビが「景気は緩やかに回復軌道に乗った」と報道しているが、この会合での情報、意見交換会でも、ねじを取り扱っているわれわれは未だに体感として感ずるまでには至っていないとの認識が大半であった。

景気回復が回復する兆しとともに、またぞろ、ねじの素材である鉄鋼線材、ステンレス線材の値上げが打ち上げられて来た。いつものことながら、値上がり分を製品売価に転嫁することの困難さが思いやられると、怨嗟にも似た声があった。

時節柄決算期をむかえて、公認会計士あるいは税理士に対する報酬はどの程度が標準なのか情報交換をさせて欲しいとの提案があり、各社からその実体や意見が発表された。各社の実情によって違うのだろうが、この様な問題は意外と以前からそうだからと言って疑問視しない傾向にあることがわかった。

何について意見交換するか、事前に決めておいたらどうだろうか、との提案もあった。2時間は瞬く間に過ぎてしまった。

【参加者】

山口昌利、岩下幸旦、山村篤、千葉恵一、深尾治、清水司郎、永井満二、田中利彦、木村貞雄、二瓶久、佐々木宏美。